

家庭科

家庭科部 小鮎 祐花

研究協力者 鎌野 育代

1 家庭科における「教科本質的な学び」について

日常生活の中から見いだした問題から設定した課題を、実践的・体験的な活動を通して解決し、生活をよりよくする学び

家庭科の本質的な意義の中核をなす生活の営みに係る見方・考え方は「家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，よりよい生活を営むために工夫すること」である。この見方・考え方を踏まえ，家庭科の教科本質的な学びを「日常生活の中から見いだした問題から設定した課題を，実践的・体験的な活動を通して解決し，生活をよりよくする学び」とした。本校では，「共によりよい生活を創造する子ども」の育成を目指している。「共によりよい生活を創造する子ども」を育成するためには，家庭科の本質的な学びが欠かせない。なぜなら，家庭科の教科本質的な学びを繰り返していくことで，自分で生活をよりよくしていくことよさを実感し，進んで生活をよりよくしていこうとする態度を養うことができるからである。また，進んで生活をよりよくしていこうとする態度は，家庭科で身に付けた力を，家庭，地域から最終的に社会へとつなげ，社会を生き抜く力としていくために必要である。

そして，そのような態度を持ち続けることは，現在の自分のみならず，将来の自分や家庭，地域，最終的には社会をもよりよくしていくことにつながり，共によりよく生きていくことができる生活を創造していくことができるからである。

2 研究の方向

家庭科の教科本質的な学びは「日常生活の中から見いだした問題から設定した課題を，実践的・体験的な活動を通して解決し，生活をよりよくする学び」である。教科特性に着目すると，日常生活を振り返り，問題を見だし，課題を設定し，解決していくために，自分に必要な知識や技能は何かを考え，知識や技能を身に付けたり，実践的・体験的な活動を行ったりする経験を積むことは，必要な学習過程だと考える。しかし，一人一人家庭環境が違うため，他者の考えを受け入れられなかったり，よさを見いだせなかったりすることが考えられる。自分の考えを受け入れてもらえなかったり，肯定してもらえなかったりすることは，自信を失うことにつながり，生活をよりよくしていこうという意識にはつながらない。また，今まで家族や地域の人々に支えてもらう経験が多く，家族の一員として生活をよりよくしたという経験が少ないため，自分や家族，地域の人々のために生活を自らよりよくしようと工夫すること自体に困難さを感じることも考えられる。自信を深められれば，困難に直面しても，自ら課題を解決し，進んで生活をよりよくしていこうという意識を養うことができる。そのため，考えを認め合ったり，よさを見いだしたりし合える環境の中で，他者と協働し，実践的・体験的な活動を繰り返すを行い，試行錯誤することによって，教科本質的な学びの実現を目指していく必要がある。

そこで，「自信」を深める学びを実現し，共によりよい生活を創造する子どもたちを育成できると考え，研究を進めていくことにした。

3 研究内容

(1) 家庭科における「自信」

家庭科の教科本質的な学びにおける「自信」を以下の表のように捉える。

自分ができる	自分の日常生活をよりよくすることができる
努力すればできる	自分の課題の解決が困難だったとしても、試行錯誤しながら自分の日常生活をよりよくすることができる
認められている	自分の日常生活をよりよくするための方法を伝えても、受け入れてもらえる

(2) 「自信」を深める学び

家庭科の自信を深める学びとは、日常生活をよりよくできるという見通しをもって学習に取り組み、よりよくできたという経験を積む学びだと考える。家庭科では、日常生活の中から見いだした問題から課題を設定し、自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を考える。課題の解決に向けて実践的・体験的な活動に取り組んだ結果を振り返り、考えたことを伝え合ったり、他者からの意見を踏まえて改善方法を考えたりする。そして、家庭・地域での実践を通して、家庭生活を大切にしている心情を育み、生活をよりよくしようと工夫する態度を育てることを目指している。

これまでの研究で明らかにした学習過程に以下の2つの要素を加え、自信を深める学びを実現していくことを目指す。

1つ目は、日常生活とのつながりを明確にすることである。自分の日常生活とのつながりを明確にすることにより、家庭科で学習した知識や技能がより、生活に生かせるものとして定着・習熟する。また、日常生活を意識し、一人一人が課題を明確にし、題材に取り組むことで、子どもが課題を解決できた時の達成感や充実感を実感し、自信を深めることができるようになる。

2つ目は、自分の考えや取組に対する評価者の設定である。家庭での実践を行う際に、他者評価の機会を設ける。考えを肯定してもらうことや自分の取組に向き合い、意見を伝えてくれるということは、日常生活をよりよくできたという実感とともに、今後の生活をよりよくしていきたいという思いをもつことができるようになる。以下の表は、これまでの研究で明らかにした学習過程に2つの要素を加えたものである。問題解決的な学習にこのような要素を加えることで、家庭科においてより自信を深めていけると考える。

問題解決的な学習の過程	学習過程	自信を深める学びに必要な要素
【見つめる・つかむ】 過程	○生活の中から問題を見だし、課題をつかむ ○課題の解決につながる学習計画を立てる	○実践的・体験的な活動と日常生活とのつながりの明確化
【追究する】 過程	○実践的・体験的な活動を通して、課題を解決する 方法を試行する  試行した方法を評価・改善する ○調理や製作の実習を行う	
【まとめる・広げる】 過程	○課題の答えを整理し、家庭での実践計画を立てる ○家庭で実践する ○家庭で実践した結果や感想を話し合い、題材の振り返りをする	

(3) 「自信」を深める学びに求められる子どもの様子

家庭科における「自信」を深める学びに求められる子どもの様子を問題解決的な学習の過程に沿って表すと以下の表のようになる。

問題解決的な学習の過程	求められる子どもの様子
【見つめる・つかむ】 過程	・自分の日常生活から見いだした問題から設定した課題を、解決しようという意欲をもっている。 【生活の向上の具体化】
【追究する】 過程	・生活経験や授業で得たことを基に自分から考えを積極的に伝えている。 ・実践的・体験的な活動で、困難さに直面しても、様々な方法を発想したり、試したりしている。 【心理的安全性】 ・実践的・体験的な活動で家庭での実践につながる実践方法や道具の選択等を工夫し、実践している。 ・自分の実践的・体験的な活動で得た生活に生かせることや友達の実践を参考にし、実践的・体験的な活動や家庭での実践、生活に生かそうと発言をしたり、記述をしたりしている。 ・実践的・体験的な活動で困難さがあつた時に、解決に向けて友達に質問をしている。 【生活の向上の具体化】
【まとめる・広げる】 過程	・得た生活に生かせることを基に、家庭で実際に実践したいことを発言したり、記述したりしている。 ・友達の実践を参考にし家庭での実践計画を立てようと発言をしたり、記述をしたりしている。 ・よりよくできたことやこれからの生活をよりよくしていこうという前向きな発言をしたり、記述をしたりしている。 【自分の成長の実感と生活をよりよくしたいという意欲】

(4) 学びのデザイン

① 「自信」を深める学びを実現する学びのデザイン

「自信」を深める学びを実現するために、以下のデザインを構想した。

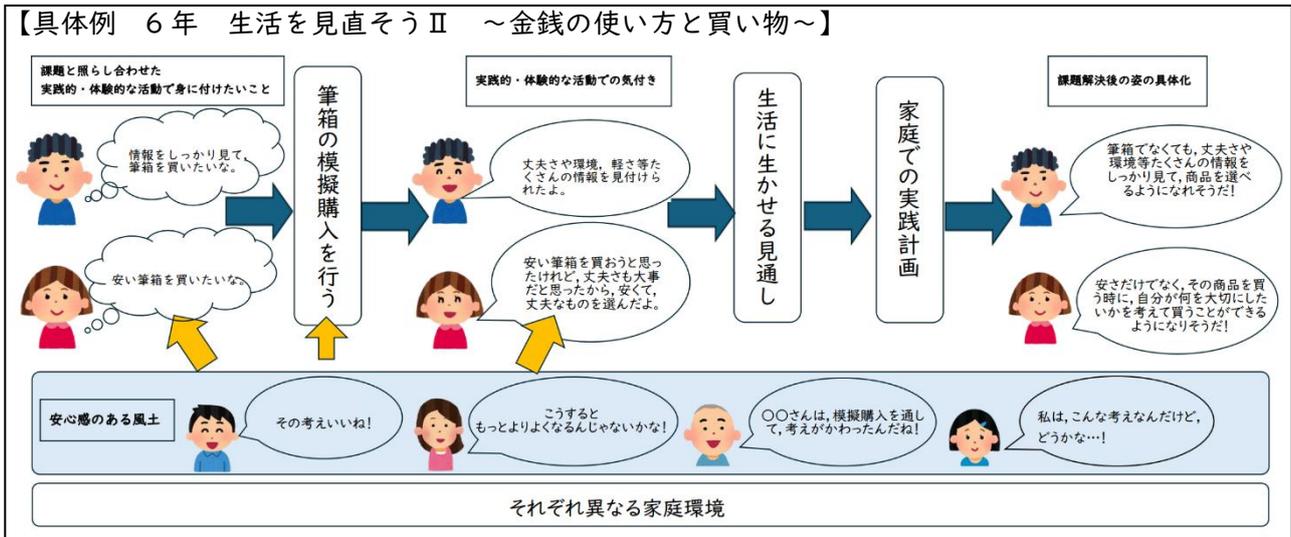
【実践的・体験的な活動と日常生活とのつながりの明確化】

「自信」を深める学びは、子ども自身の生活をよりよくするという教科本質的な学びを実現する上で大切である。なぜなら、問題解決的な学習や家庭での実践を行う中で、自信の深まりがなければ、生活の中で、学んだことを生かそう、生活をもっとよりよくしたいという前向きな取組に至らないからである。しかし、これまでの実践では、授業での学習を自分の生活に生かそうとする姿が少ないことが課題として見られた。理由として、日常生活と実践的・体験的な活動のつながりが弱かったことが考えられる。つながりを明確にすることで、「自分はできる」「努力すればできる」という「自信」が深められると考える。

家庭での事前調査やアンケートの結果を基にする、授業や学校行事との関連を図る等、子どもたちの実態に合った実践的・体験的な活動の内容を設定する。子どもたちの実態に合った実践的・体験的な活動にすることで、自分の課題解決や生活をよりよくするために、どのようなことを身に付けたらよいのか、身に付けたら自分の生活をどのようによりよくできるのかを見いだして、取り組めるようにする。また、実践的・体験的な活動を通して得た生活に生かせることを学習計画シートに記述し、可視化して蓄積する。可視化していつでも目にすることができるようになることで、家庭での実践計画を立てる際に反映できるようにする。そして、家庭での実践計画を立てた後に、家庭での実践後の自分の生活がどのようによりよくなるのかという課題解決後の姿を具体的にもつ機会を設定する。課題解決後の姿を具体的にもつことで、自分の日常生活の変化に気付き、達成感や充実感を実感することができる。

実践的・体験的な活動と日常生活とのつながりが明確になることにより、それぞれの日常生活がこれまで以上に周りに伝わる事が考えられる。一人一人異なる家庭環境であること、だからこそ、互いの違いを認め合い、学び合い、高め合い、新たな気付きにつなげられるということ子どもたちと共有した上で学習に取り組むことで、「認められている」という「自信」が深められると考える。

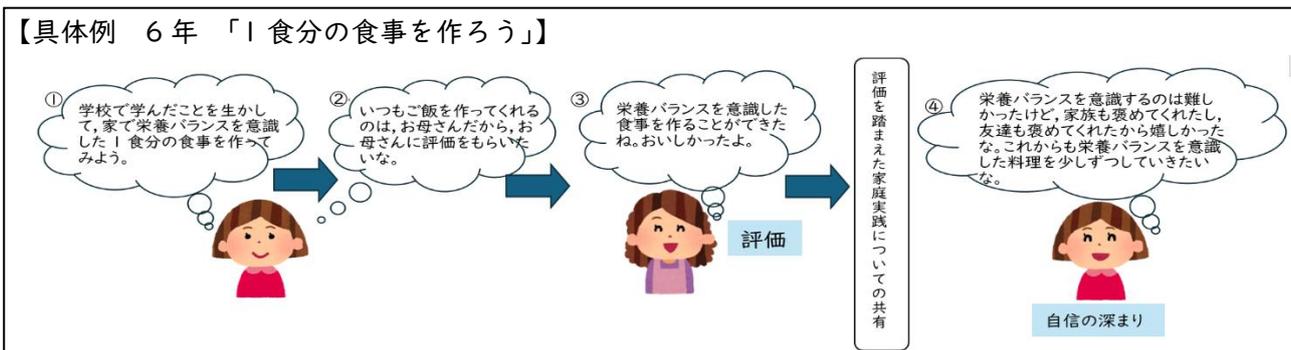
【具体例 6年 生活を見直そうⅡ ～金銭の使い方と買い物～】



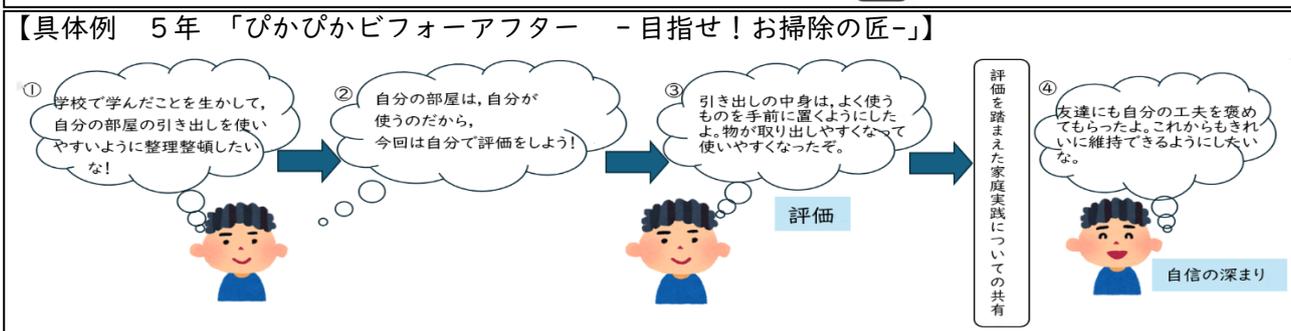
【自分の考えや取組に対しての評価者の設定】

今まで家族や地域の人々に支えてもらう経験が多く、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫すること自体に不安を感じていたり、家庭を支える上での一員という自覚ができていなかったりする実態がある。そこで、家庭での実践の中での家族等の他者からの評価を取り入れる。そして、もらった評価を踏まえた家庭での実践について友達と共有する機会を設定する。これは、「認められている」という自信を深めることができると思う。なぜなら、家庭での実践に対して、家族等の他者と気持ちや評価を伝え合ったり、触れ合う機会をもったりすることは、子どもたちが達成感や充実感を実感すると共に、自分は大切な構成員の一人という自覚をもつことができると思う。また、家族等の他者の評価も踏まえて、家庭での実践について友達と共有することは、友達から称賛や質問等を受ける機会となり、自分の取組に向き合ってくれていると実感することができる。このような家族等の他者からの評価を取り入れ、子どもたちが「認められている」という「自信」を深めるために、家庭での実践計画を立てる際に、評価をもらう相手を決定する機会を設ける。また、活動によっては、評価者が家族等の他者ではなく、自分になることもある。自分の実践が他者の生活をもよりよいものにしていくものなのか、自分の生活をよりよくしていくものなのかによって評価者は変わる。このような活動を取り入れることで、「認められている」という「自信」の深まりを促す。

【具体例 6年 「1食分の食事を作ろう」】



【具体例 5年 「ぴかぴかピフォーアフター -目指せ!お掃除の匠-】



②教師の関わり

「自信」を深める学びでは、日常生活とのつながりを捉えて、実践的・体験的な活動に取り組んだり、自分の目標となる姿を明確にしたりする必要があると考える。そのような学習を子どもたちが進めていく際に、日常生活とのつながりを捉えることができているか等教師が子どもたちの実態を把握しながら、方向性を確認したり、活動を焦点化したりする必要がある。子どもたちの学びをより円滑に進め、「自信」を深める学びを進めていくために、教師の適切な支援が必要となる。

そこで、「自信」を深める学びにおける教師の関わりを以下のように想定した。

問題解決的な学習の過程	教師の関わり
【見つめる・つかむ】 過程	・自分事として、学習に取り組めるような学習課題を設定できるように、導入でアンケートや自分の日常生活を振り返るような機会を取り入れる。(間接)
【追究する】 過程	・子どもたちの抱える問題やアンケート結果に応じて、実践的・体験的な活動を焦点化して設定する。(間接) ・見いだした生活に生かせることと生活との関連を問いかける。(直接) ・自分の考えを安心して伝え合うために、他者の考えを否定するのではなく、理由や改善策を共に考えるということ子どもたちと共有する。(直接)
【まとめる・広げる】 過程	・課題解決に向けて、実践的・体験的な活動で得た生かせることを基に、家庭での実践計画を立てたり、家庭で実践したりできたことを具体的に称賛する(直接) ・家庭での実践をする際、家庭に学年通信等を通して活動内容を周知する。(間接) ・評価者が妥当か確認するために、評価者を決定した理由を問いかける。(直接) ・家庭での実践の前に実践の内容や家庭環境に配慮し、必要に応じて、内容と評価のもらい方を子どもと検討する。(直接) ・家庭での実践において、自分の評価と家族の評価を記入する振り返りシートを用意する。(間接)

4 授業実践 5年「ぴかぴかビフォーアフター -目指せ!お掃除の匠-

(1) 題材の学びのデザイン

家庭の清掃状況を調査し、問題から課題を設定し、身に付けた住まいの清掃の仕方についての基礎的な知識・技能を生かし、課題を解決していくことができると考え、次のように題材を構想した。

目標	汚れの種類や汚れ方に応じた手軽で手際の良い清掃の仕方が分かり、日常生活に生かそうとする。	
過程	時間	学習活動
【見つめる・つかむ】 過程	家庭 	○家庭の汚れが気になるところについて、調査する。 ○家庭の汚れと清掃の仕方について、疑問点や改善点について考え、課題をつかむ。 学習課題 気持ちよく過ごせるために、簡単で続けられる清掃の方法を見付けるためには、どうしたらよいのだろう
【追究する】 過程	 	○「調理室ピッカピカ作戦」の清掃計画を立てる。 ○「調理室ピッカピカ作戦」を行う。
【まとめる・広げる】 過程	 家庭 	○調理室を清掃した結果を話し合い、家庭での清掃計画を立てる。 ○「ホームクリーン作戦」を行う。 ○家庭で清掃を実践したことを基に、清潔さを保つための方法を話し合う。

本題材において、「自信」を深める子どもに求められる様子の具体は、以下のとおりである。

問題解決的な学習の過程	求められる子どもの様子
【見つめる・つかむ】 過程	・自分の日常生活から見いだした問題から設定した清掃に関する課題を、解決しようという意欲をもっている。【生活の向上の具体化】
【追究する】 過程	・生活経験や授業で得たことを基に自分から考えを積極的に伝えている。 ・「調理室ピッカピカ作戦」で、困難さに直面しても、様々な清掃方法を発想したり、試したりしている。【心理的安全性】 ・「調理室ピッカピカ作戦」で「ホームクリーン作戦」につながる清掃場所や清掃方法になるよう工夫し、実践している。 ・「調理室ピッカピカ作戦」で得た生かせることや友達の実践を参考にして、「ホームクリーン作戦」や生活に生かそうと発言をしたり、記述をしたりしている。 ・「調理室ピッカピカ作戦」で困難さがあつた時に、解決に向けて友達に質問をしている。【生活の向上の具体化】

【まとめる・広げる】 過程	<ul style="list-style-type: none"> ・「調理室ピッカピカ作戦」で得た生活に生かせることを生かして、「ホームクリーン作戦」の計画を立てようと発言をしたり、記述をしたりしている。 ・友達の実践を参考にして「ホームクリーン作戦」の計画を立てようと発言をしたり、記述をしたりしている。 ・よりよくできたことやこれからの生活をよりよくしていこうという前向きな発言をしたり、記述をしたりしている。 <p style="text-align: center;">【自分の成長の実感と生活をよりよくしたいという意欲】</p>
------------------	--

なお、本題材において、自信を深める学びを実現し、「自信」を深めることができるように、以下のよ
うに学びのデザインを具体化した。

【実践的・体験的な活動と日常生活とのつながりの明確化】

冬休みに子どもたちは、家庭の汚れが気になるところを調査した。調査結果を基に、「ホームクリーン作戦」につながる場所を学校で選択し、実践的・体験的な活動を行うことにした。コンロや水回り、冷蔵庫や棚の上等子どもたちの選択した場所として調理室に該当するものが多かったことから、実践的・体験的な活動の場として調理室を選択し、「調理室ピッカピカ作戦」と名付け、実践することにした。

また、実践的・体験的な活動を通して得た生活に生かせることを学習計画シートに記述し、可視化して蓄積する。可視化することで、「ホームクリーン作戦」の計画の際に反映することができる。そして、「ホームクリーン作戦」の計画を立てた後に、「ホームクリーン作戦」後の自分の生活がどのようによりよくなるのかという課題解決後の姿を具体的にもつ機会を設定する。課題解決後の姿を具体的にもつことで、自分の日常生活の変化に気付き、達成感や充実感を実感することができる。

【自分の考えや取組に対しての評価者の設定】

「ホームクリーン作戦」の評価者を、計画を立てる際に決定する。評価者を設定することで、相手意識をもって活動に取り組めたり、家族の構成員の一人であるという自覚をもったりすることができる。

【教師の関わり】

過程	教師の関わり
【見つめる・つかむ】過程	<ul style="list-style-type: none"> ・自分事として、学習に取り組めるような学習課題を設定できるように、導入で自分の家庭の清掃状況を調査する機会を取り入れる。(間接)
【追究する】過程	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの抱える清掃に関する問題や課題解決につながるように、「ホームクリーン作戦」につながる場所を清掃できるよう、焦点化した実践的・体験的な活動を設定する。(間接) ・見いだした生活に生かせることと生活との関連を問いかける。(直接) ・自分の考えを安心して伝え合うために、他者の考えを否定するのではなく、理由や改善策を共に考えるということを子どもたちと共有する。(直接)
【まとめる・広げる】過程	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて、実践的・体験的な活動で得た生かせることを基に、「ホームクリーン作戦」の計画を立てたり、家庭で実践したりできたことを具体的に称賛する。(直接) ・「ホームクリーン作戦」をする際、家庭に学年通信等を通して活動内容を周知する。(間接) ・評価者が妥当か確認するために、評価者を決定した理由を問いかける。(直接) ・「ホームクリーン作戦」の前に実践の内容や家庭環境に配慮し、必要に応じて、内容と評価のもらい方を子どもたちと検討する。(直接) ・「ホームクリーン作戦」において、自分の評価と家族の評価を記入する振り返りシートを用意する。(間接)

4 成果と課題

本校家庭科における問題解決的な学習の中で、「共によりよい生活を創造する子ども」の育成に向けて、「自信」を深める学びのデザインについて研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

○成果

家庭科のこれまでの実践の課題と「自信」を深める学びの実現に必要な2つの要素を踏まえ、学びのデザインとして、実践的・体験的な活動と日常生活とのつながりの明確化や家庭からの評価を取り入れた。それによって、日常生活とのつながりが明確になり、子どもたちが自分事として自己決定しながら学習に取り組んだり、学習課題の解決が生活をよりよくすることにつながることを子どもたちが実感したりすることができた。また、家庭での実践は、子どもたちにとってあまり経験がなく、困難さがあつたが、デザインを取り入れたことで、一人で家庭での実践を行い、達成感や充実感を実感することができた。その結果、子どもたちは「自信」を深められたと考えられる。

○課題

家族等の他者から評価をもらうということは、「認められている」という「自信」を深めることを想定していた。一人で家庭での実践を行う困難さを見据えた上で、家庭での実践に向かって実践的・体験的な活動を行い、そこから得た生かせることを基に家庭での実践を行い、実践したことについての評価と共に友達に共有することは、子どもたちにとって「自分是可以る」「努力すればできる」という「自信」を深める機会となった。また、家庭での実践に対する家族からの評価を友達に伝えたり、友達に称賛してもらったりすることは、より一層「認められている」という「自信」を深めることができると感じた。子どもたちの「自信」を深めていくためにも、家庭での実践内容を踏まえた班編成や共有の進め方について検討していく必要があると考える。

【参考文献】

- ・中島雅子（2024）「一枚ポートフォリオ評価論 OPPA でつくる授業 小学校編」 東洋館出版.
- ・岡陽子（2021）「家庭科 生活の課題解決能力を育む指導と評価-メタ認知を活性化する「資質・能力開発ポートフォリオ」の提案-」 東洋館出版.